

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571800194		
法人名	医療法人 豊寿会		
事業所名	グループホーム皇子原 1号棟		
所在地	宮崎県西諸県郡高原町大字西麓173番地3		
自己評価作成日	平成22年 6月 5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/JigyosyoBasicPub.do">http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/JigyosyoBasicPub.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局		
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101		
訪問調査日	平成22年6月24日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内に、併設の医療機関があり、医療面や健康面において、安心した入居生活が送れている。
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>田園風景が広がる中に木造で雰囲気良くホームが立地し、自然環境の中で居心地の良い環境が提供されている。併設の医療機関のバックアップも充実しており、健康管理・急変時の対応などスムーズに支援が来ている。食事内容について嗜好調査を実施し、個別対応を行うなどきめ細かい支援を行っている。「食事を楽しむことのできる支援」については、改善に向けて検討を始めている。家族や職員からの意見も出しやすい雰囲気作りに取り組んでいる。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関やホールで毎日目に入る場所に掲示しており、職員全員が同じ方向性で介護に生かせるようにしている。	ミーティングの時など職員全員で理念「老いても心豊かに生きることを応援し、個性に共感ある介護を目指す！」について具体的な取組みの話し合いを行っている。	理念をもっと分かりやすく、また具体的にケアへの取組みや、地域との関係性を盛り込んだ内容を、現在、職員全員で作成に向け検討をしているので更なる内容の充実に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭や地域の方の庭に咲いている花の花見会など、少しずつ取り組んではいるが、回数はすくない。	催し時には地域ボランティアの参加や、近所の保育園児との交流があり、園児の保護者も参加し、会話の輪が広がっている。地域の方の庭の花見会なども少しずつ取り組んでいる。	自治会加入への取組みを今後も継続して、地域との交流が増えていくよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所としては、家族を通しての発信に留まってはいるが、職員個々で生かしていることがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されており、出席されている方々のご意見等が反映されるように、職員で話し合いより良いサービスが提供できるように、取り組んでいる。	定期的に開催されており、行政の職員、民生委員、家族の参加が見られ、活発な意見交換の場となっている。会議で出た意見を取り入れ運営に活かすなど意味のあるものとしている。	議題によってはメンバー以外の方に参加して頂いたり(消防署職員など)、また民生委員以外にも地域住民代表の方の参加があると更に充実した会議になるのではないだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等にて事業所の入居状況や毎月のケアの取組みを報告している。	主にホームの管理者が窓口となり、運営上不明な点を担当者に聞いたり、ホームの現状について伝えたりしながら、少しでも協力関係が築けるように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会があり、ミーティング等で話し合い職員全員で取り組んでおり、拘束ゼロである。	委員会の中で拘束の弊害等、職員全員に意識付けを行い、玄関の鍵も日中は掛けていない。徘徊の頻繁な時は、その方の行動を職員が意識・注意しながら拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行われないように、職員間で勉強会など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング等や勉強会など行われている。家族への発信も行われているが、活用例はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、不安や疑問点などご意見をお伺いし、ご納得頂いた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の会話やご家族の面会時に話を伺ったり意見箱を活用している。ご意見等を元に反映する事が出来るよう対応している。	家族会の時や家族の来訪時に意見を聞いたり、意見箱の設置により少しでも意見が出やすい環境づくりに努めている。以前、意見箱に意見が入っており、職員全員で内容の共有をし対応を行った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に職員からの意見や提案を聞き職員全員で検討し、反映できるようにしている。	月1回のミーティング時に、運営について職員全員で検討し対応を図っている。管理者は、意見の出しやすい雰囲気作りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格により、給料に変動がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会があり、出来る限り参加しスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム間の合同会議や研修等に参加し交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っていることや不安を解消出来るよう細かく聞き取り、職員間で話し合い安心の出来る生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時や契約時に困っていること、不安を解消出来るように聞き取りを十分に行い、家族の要望等に出来る限り添えるような対応を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に、本人やご家族がどのような希望なのか、何を必要としているのか、見極められるよう聞き取り、他のサービスの情報も説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること、出来ないこと職員間で情報を共有し出来ることを伸ばし、維持できるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の近況をお知らせする手紙や、施設の行事や情報等をお伝えする新聞を通して、家族の支援の必要性をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には居室やホールなどゆっくりと話などして頂けるよう、環境作りに努めている。。	入居前のご近所の友人を家族に連れてきて頂いたり、今まで利用されていた美容室を引き続き利用するなど、これまでの関係が途切れないよう家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わり合える環境を作り、一緒に活動が出来るように工夫している。又、一人一人の能力に合わせた活動が、出来るよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了、退所後の相談は受けていないが、フォローし、相談や支援が出来るよう、他の職種との連携が図れるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に生活歴などを聞き取り、本人の思いや希望に添えるよう検討している。	センター方式のシートを一部使用し、利用者・家族からの聞き取り、また利用者の言葉や行動から思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に入所に関わった他職種や家族の情報を元に職員間で把握し、共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や、排泄、水分摂取等の記録をこまめに記録し、申し送りで把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングや担当者会議において、職員や家族から意見を聞き、介護計画の反映に努めている。	モニタリングは3か月に1回、計画は6か月に1回の見直しを行なっている。入退院があったり必要時は、その都度計画の見直しを行っている。	利用者の細かい変化に対応するためにも月に1回はモニタリングを行い、介護計画の見直しについて検討し、必要な場合は計画の変更を行うなど、更に利用者の生活向上に努めている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のすべての記録などについて申し送りを行い職員間での、情報や意見を共有し、反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の変化や、家族の要望など本人にあった支援が出来るような体制をとれるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	数は少ないが、園児の訪問など楽しみが持てるような支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が、併設の医院であり、24時間体制で支援できるようにしている。	併設の医療機関の医師が定期的(月に2回)に往診を行い、また夜間も医師がすぐに駆けつけて対応するなど充実した医療が受けられる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態や、変化など報告し指示を受けられるような体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	随時情報交換や、連絡を取れるように努め、家族とも常に連絡を取りながら、安心して治療できるような体制をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や、重度化した場合など医師、家族を交えて説明し、ターミナルまで行える体制をとっている。	医療連携体制に関する指針を作成し、重度化した場合や終末期の対応説明や、利用者・家族の意向について話し合いを持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時など、連絡体制が決められてある。定期的ではないが、応急手当や、初期対応の勉強を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制はとれてないが、近くに消防署があり、昼と夜の消防訓練が行われている。避難態勢についても話し合っている。	災害時のマニュアルや連絡網など整備され、職員全員が非常時の対応について意識して取り組んでいる。	避難訓練が1回しか実施されていないので必ず年2回以上の訓練実施を行ってほしい。また近所の方へ協力の声かけを行い、訓練への参加を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人一人が、人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけを行うよう努めている。	接遇委員会やミーティングで人格を尊重した声かけや態度、プライバシーの重視など、全職員で意志の統一を図り、実践を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、言葉や行動が出来るように声かけを行い支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れは、ある程度決まっているが、本人の自主性を尊重し、本人の希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時に本人と一緒に衣類など選ぶなど声かけを行い、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い、好みの把握をしている。全員ではないが、準備や片付けは出来る範囲でして頂けるよう支援している。	テーブル拭きや調理の手伝い、後片付けを利用者数名と一緒に進めていた。また職員の1人は持参した食事を利用者と一緒に会話しながら食べられていた。嗜好調査を行い個別対応(別メニュー)にも取り組んでいる。	職員全員が利用者と同じ食事を一緒に摂れるよう、人員(職員)の確保に向けて取組まれているので、実現するよう期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量など、チェック表を活用し、状態に合わせて刻みやお粥にするなど摂取しやすい工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人が出来る範囲でして頂き、職員が一人一人に応じた声かけや、介助を行う支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用し、一人一人のパターン把握に努め、トイレへの声かけや誘導を行い、失敗を減らす工夫をしている。	排泄チェック表を作成・記録し状態の把握に努め、声かけや誘導など個別対応の支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人記録や現場での排便を確認し、運動や飲食物などを工夫し、個々に応じた予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、支援しているが、勤務体制など時間外は難しい点がある。	ホームの定めた曜日や時間帯を基本としているが、希望や今までの生活習慣を尊重し、夕方からの入浴支援にも積極的に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠に支障がないように、日中状況に応じてソファーや居室の方で、休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方薬の一覧が保管されており、職員が常時見て、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人のレベルを把握し、出来ることや得意なことを取り入れるよう支援し、気分転換が図れるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や野外活動など、出かけられるよう支援しており、家族の協力も得られ支援できている。	土・日曜日を中心に散歩など外出の機会を設けるよう取り組んでいる。また家族の協力を得ながら遠出する機会を作る支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事務所が預かり、本人は所持できていないが、野外活動時にお金を使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望に合わせて、いつでも利用できるように支援しているが、手紙のやりとりはされていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や、制作物を飾ったりするなど工夫をしている。また、光や温度の調節もこまめに行っている。	季節が感じられる花や飾りなど、さりげなく置いてある。風通しも良く居心地の良い空間作りに努めている。棟によっては食堂が若干暗い所もあるが、別スペースに日当たりの良い居間を設けて、食事以外は居間でゆっくりと過ごすことができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子などを利用して出来る限りの、工夫や支援に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族に相談しながら、出来るだけ本人の使い慣れた物や、好みの物を持ち込んで頂き、居心地よく過ごせる工夫に努めている。	利用者それぞれで自由に椅子や仏壇、筆筒など持込があり、個性があふれ、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名前を張ったり、カレンダーをわかりやすいように設置するなど工夫している。		